



新富、前田地区の間を流れる高山川では、かつて甚大な被害をもたらした水害が起こりました。

高山橋の近くに建てられた「高山川水害史碑」には、次のような碑文が刻まれています。

『昭和13年10月14日から15日にかけて、高山町は未曾有の大雨（総雨量420ミリ）により山津波が起き、死者118名、行方不明53名、重傷者253名の大水害が発生しました。当時の文献によると「まるで潮のように押し寄せる洪水には、防ぎ得る何物もない。浸水した家は見る見る満水となり、人々は天井を打ち破り屋根の上に避難し、運を天に任せた。なかには屋根にすがったまま急流に陥り、もうこれまでと泣



きわめきながら、家族全員抱き合い下流に押し流された者もいた」とあります。』

史碑にある死者118名は、高山町における犠牲者数で、上流の吾平町でも71名が犠牲になっています。合わせると189名の方が犠牲となり、両町合わせた行方不明者の数も70名に及びます。当時の肝属川流域（鹿屋市、吾平町、高山町、串良町）における被害合計は、家屋全半壊1018戸、家屋流失514戸、浸水家屋5067戸と刻まれています。まさに未曾有の大災害でした。



高山川水害が発生した昭和13年10月の豪雨は、内之浦にも甚大な被害を及ぼしています。旧内之浦町誌では、「昭和13年の風水害」について、次のような内容が記録されています。

『昭和13年10月14日の午後2時頃から15日未明まで、肝属地方に襲来した台風は、文字通り未曾有の豪雨を伴い、各河川は、いずれも既往水位をはるかに突破して記録的洪水となった。そのため水源各山脈は数知れぬ大崩壊を起こし、ところによってはこれが堰堤となつて溜池状態を呈した。また、たちまちのうちにこの堰堤が決壊すると奔流となり、巨大な岩盤も根こそぎの大樹も一様に押流されて、一瞬にして野も山も田畑も家も濁水の底に沈められるという形容する言葉もない凄惨な状況を呈した。』

この水害による死者は63人、行方不明者42人、重傷者94人と記録されています。



未曾有の大災害が起こってから、長い年月が経ち、当時の被害の見る影もなく、私たちは生活しています。しかし、いつ同じような大災害が起こるかわかりません。

いつ何時起こるかわからない災害に対し、自分たちは何ができるのか、考えなければなりません。



国見トンネル内之浦側入口から東を望む山中（元内之浦営林署国見平事業所跡）に「昭和13年大水害」の慰霊碑がひっそりと建っています。表に当時の熊本営林局長の揮毫で「慰霊碑」と刻まれ、裏に「銘」があります。

▲「昭和13年大水害」の慰霊碑